

2018年度 新潟県クラブユースサッカー(U-14)新人大会
兼 2019年度 新潟県クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 予選会
大会規定

1. 競技規則 2017/2018年(公財)日本サッカー協会『サッカー競技規則』による
2. 競技方法
 - (1) シードは2017年度新潟県クラブユースサッカー(U-13)大会の結果を基に大会実施委員長が決定する。
 - (2) 予選リーグ 8月19日(土)・20日(日)・25日(土)・26日(日)
 - ① 参加希望チームをa～hの8グループに分けリーグ戦を行う。
 - ② ①の各グループに第2シードチームを1チームを入れる。第3シードグループを会場を考慮し振り分ける。NICY U-13大会出場チームの抽選をし、それ以外のチームはフリー抽選とし、会場を考慮し各グループ分けを行う。
 - ③ ①の上位1チームを決勝トーナメントへ、それ以外は2位トーナメント、3位トーナメント、4・5位順位戦と振り分ける。
 - (3) 順位決定トーナメント・順位決定戦 9月16日(日)・17日(月、祝)
 - ① Sシード8チームと(2)①の各グループ1位8チームにて決勝トーナメントを行う。2位8チームにて2位トーナメント、3位8チームにて3位トーナメントを行う。
 - ② (2)①の4位、5位のチームにて順位リーグ、順位決定リーグまたはフレンドリーマッチを行う。
 - ③ (3)①②の結果に基づき順位を決定する。
 - (4) 予選リーグ、順位リーグ、順位決定リーグは勝ち点制とし、勝ち点は以下の通りとする。
 - ① 勝ち=3点、引分け=1点、負け=0点
 - ② 勝ち点が同一の場合、(i)得失点差(ii)総得点(iii)対戦成績(iv)抽選の順で順位を決定す
 - (5) 試合時間
 - ① 全試合50分(25分-5分-25分)で行う。
 - ② 試合時間内に勝敗が決定しない場合はPK合戦を行い勝敗を決定する。
3. 試合前・試合中のウォーミングアップ
 - (1) 試合前のウォーミングアップは各会場の指定された場所及び方法で行う。
 - (2) ピッチ内アップ
 - ① 試合開始前のピッチ内アップが可能な場合はボールを使って行う。
 - ② ハーフタイムのピッチ内アップは、原則として次に試合のチームが行うことができる。
 - ③ 試合中のアップについては、ベンチ脇で行うこと。この時、ボールの使用は厳禁とする。
 - ④ 順位トーナメントにおいて前の試合がPK合戦で試合時間が延び、試合開始前のピッチ内アップが出来なくなる恐れが生じた場合は、各会場の競技責任者の指示に従うこと。
 - ⑤ 試合中の控え選手によるウォーミングアップは、ボールを使わず本部から離れた側のベンチ脇で行うこと。
 - ⑥ 天然芝会場の場合は、各会場によって芝の保護の必要性から試合中のベンチ脇でのアップにおいては、ステップを含むアップは禁止としランニング等の芝を痛めないアップを行うこと。また、会場によっては、トレーニングシューズの利用をお願いします。各会場担当者に確認の上お願い
4. 代表者会議
 - (1) 原則として、各会場第1試合開始60分前に当該出場チームの代表各1名によるミーティングを行う。2日間に渡り開催される場合は2日目の代表者会議の開催は、会場担当者の判断に委ねる。
 - (2) 代表者会議では、試合日程及び審判割りの確認、各会場の利用方法と最後にユニフォームチェックを行い、スムーズな競技運営に各チームで協力をお願いします。
5. 選手交代
 - (1) 当日ベンチ入りした14名までとし、再出場は認めない。
 - (2) 交代用紙は使用しない。
 - (3) 交代により入場する選手は、交代により退場する選手がピッチの外に出た後、主審の合図によりハーフウェーラインのところからピッチに入る。
 - (4) 各試合のメンバー表提出後、試合開始前までの時間に怪我などの特別な理由により、その試合に登録された選手が出場出来ないと当該会場本部役員が判断した場合に限り、下記の通りメンバーの変更を認める。
 - ① 先発選手の場合、控え選手を先発選手に変更し、新たに控え選手を登録済みの選手の中から補充することが出来る。ただし、出場出来ない当該選手がベンチに留まりたい場合は、当該試合に出場しないことを条件にベンチにとどめることが出来るが、この場合は控え選手の補充は出来ない。
 - ② 控え選手の場合は、登録済み選手の中から控え選手として新たに補充することが出来る。この場合も怪我等で出場出来ない当該選手がベンチに留まりたい場合は、当該試合に出場しないことを条件にベンチにとどめることが出来るが、この場合は控え選手の補充は出来ない。
 - ③ 選手の補充を行った場合、怪我等で出場出来ない当該選手はベンチ内へ入ることは出来ない。
 - ④ この選手の補充については、選手の交代にはあたらない。
 - ⑤ この措置は、本大会のみの適応とする。

6. 警告・退場 (1) 大会期間中、警告の累積が2枚になった選手は次の1試合に出場出来ない。また、退場を命じられた選手等は次の1試合に出場出来ない。
- (2) 退場・退席処分を受けた選手等(警告累積による出場停止は除く)のその後の措置は大会実施委員会を通じ新潟県サッカー協会規律委員会の承認を受けた処分を文章にて通知する。なお、この大会期間中に消化出来ない場合に限り直近の公式戦での消化となる。この場合、必ず選手及びチーム監督からの申告による直近の公式戦での消化を行うこと。故意の有る無しに関わらずこれを怠った場合は重い処分が下される。
- (3) 退場・退席を命じられた選手等は、会場役員の指示に従い所定の場所に移動すること。
- (4) 退場処分等を出した当該の審判員は「審判報告書」並びに「審判報告書(重要事項)」を当該ピッチの本部に提出すること。なお、その書面をもって、当該選手等の事情聴取を行います。
- (5) 退場及び退席を受けた選手等は、大会本部が必要と判断した場合に各会場の指定の場所で事情聴取を行います。試合終了後、会場大会本部にて待機して下さい。審判報告書の提出を待って事情聴取を開始します。
- (6) 本大会において、警告を2回受けた選手は、次の1試合に出場できない。また、警告の累積は、2次リーグ終了後にクリアする。
- (7) 本大会において、出場停止処分を消化出来ない場合は、直近の公式戦で消化することになるので、十分注意をする。
- (8) 本大会終了時、出場停止処分が残存する場合、上位大会に進出出来ないチームの選手等は必ず、直近の公式戦においてこれを消化して下さい。その場合、チーム監督及び当該選手から大会主催者に申告をして下さい。
- (9) 「累積警告」による出場停止処分は、本大会において消化するものとし、本大会の終了を持って出場停止処分は消滅する。
- (10) その他詳細は、(公財)日本サッカー協会「懲罰規定」に則る。
7. 審判 (1) 審判員は、チーム帯同審判員とし必ず写真貼り付けの審判証を携帯し、大会役員の求めに応じ提示ができること。
- (2) 審判員は、審判着、審判員ワッペンを着用を必須とする。
8. メンバー表 (1) エントリー後のメンバー変更(入力ミスによる訂正も含む)は、本大会出場初日の代表者会議時に変更したエントリー表を1部提出のこと。このとき、背番号のみの変更は認めない。
- (2) メンバー表は、各会場共に当該試合開始30分前までに各ピッチの本部へ先発選手、交代要員、ユニフォーム、ベンチ入り役員に印を付け、3部提出すること。
- (3) 選手証については、競技役員の求めに応じ提示できるようにしておくこと。
- (4) メンバー表に不備があった場合は、大会実施委員によって協議し裁定を行う。
9. 選手チェック (1) 試合開始5分前に選手チェック、用具チェックを指定された場所で行う。
- (2) 選手の装身具は全て禁止とする。ただし、女子選手のヘアバンドのみ主審が認めた場合のみそれを認める。
- (3) その他の装具については、主審の判断とする。
10. ユニフォーム (1) ユニフォームは、(公財)日本サッカー協会のユニフォーム規定を遵守すること。また、正・副の色の異なるユニフォーム(GKも含む)を用意すること。
- (2) ユニフォームの下に着用するアンダーウェアについては、ユニフォームの袖の主たる色と同色とする。また、スパッツに付いても、パンツの主たる色と同色とする。アンクルパットについては、ストッキングの下に着用すること。ソックスの上まくテープは、ソックスと同色のみそれを認める。タイツについては、基本パンツの主たる色と同色とするが、チームで統一した色のタイツを着用する場合のみそれを認める(この措置は、新潟県第三種委員会の措置である)。
- (3) 通常審判員が着用する審判着(黒色等)に類似しているユニフォームは認めない。
- (4) ユニフォームの前面及び背面には大会エントリー時に登録された選手固有の番号を付けること(GKも含む)。また、ショーツの番号については付けることが望ましい。
- (5) 登録表に入力された選手番号のユニフォームが試合開始時にない場合は違う番号での試合出場は認めない。この場合、ユニフォームが準備出来るまでその選手を欠いて試合を進めるか、交代枠を使い当日提出済みのメンバー表に従って控え選手を出場させるかの選択となる。
- (6) 背番号の張り番については、前面及び背面とも四辺をしっかりと縫い付け試合中に取れることのないようにすること。また、台座の生地は、出来るだけユニフォームの主たる色と同色にし、かつ、番号がはっきりと読み取れるものであること。
- (7) 装身具については、新潟県サッカー協会第三種委員会の申し合わせにより、男子については全てのそれを認めない。女子についてはゴム製のヘアバンドは認めるが、主審の許可を得たものとする。
- (8) ユニフォーム及び選手番号は大会登録後の変更は認めない。
- (9) その他詳細は、(公財)日本サッカー協会「ユニフォーム規定」に則る。
- (10) 新潟県サッカー協会第三種委員会の申し合わせにより、第三種における大会においては挨拶時、前後半の開始時はユニフォーム裾をパンツの中に入れることとする。
- (11) エントリー後のユニフォームの色の変更は認めない。

11. ベンチ (1) ベンチへの入場は、メンバー表に印を付けた選手最大25名(交代要員を含む)と役員5名以内とする。
(2) エントリーしていない選手並びに役員のベンチへの入場は認めない。
(3) リーグ戦においては、リーグ表上段のチームが左側ベンチ、対戦相手が右側ベンチを使用すること。また、トーナメント戦においては、トーナメント表左及び上段のチームが左側ベンチ、対戦相手が右側ベンチを使用すること。
(4) ベンチに入る交代要員の選手は、ビブスを着用すること。また、試合を終えた選手は試合をしている選手及び交代要員の選手等と明らかに違うジャージ等を着用すること。
(5) ビデオ撮影を行う場合は、ベンチ入りの選手または役員で行うこと。場所は、本部から離れたベンチ付近で行うこと。
(6) 試合中に役員は、ベンチから離れることはできない。
12. ベンチ内での態度 (1) 試合中その都度ただ一人の役員のみがテクニカルエリアに出て競技者に戦術的指示を伝えることが出来る。
(2) 試合中ベンチに入場しているものは着席をしていること。ただし、戦術的指示を伝えている役員とアップを行っている選手等はこの限りではない。
(3) ベンチ内での発言において、審判員・選手・競技役員等に対し誹謗中傷及び暴言・差別発言等は厳に慎むこと。これを行ったチーム役員・選手等に対しては厳重な処分を下します。
(4) 控えの選手及びチーム役員は、ピッチ内で試合をしている選手及び審判員と明らかに異なる色のビブス等を着用していること。
(5) ベンチ内でのビデオ撮影・写真撮影を認めます。このとき、撮影場所は本部から遠いチームベンチ内とし、撮影者は当日ベンチ入りを登録された控えの選手またはチーム役員とします。撮影を目的とした保護者等の第三者のベンチへの入場は認めません。また、撮影をするために当日登録された選手等がベンチ内から離れてそれを行うことは出来ません。
(6) ベンチを含む競技場内におけるチーム役員同士の無線通信は認められる。ただし、監督を含む役員や選手が出場停止または退場、退席処分を受けた場合においては、それは出来ない。また、試合の画像をベンチ内で見ることの出来る通信機器及び端末(PCも含む)の使用は認められない。
13. 試合球 試合球は、大会実施委員会にて準備する。
14. 飲水 (1) 試合中の飲水タイムは、各会場で競技役員、審判団等により必要と判断された場合にこれをもうける。その場合、予めラインの外に置かれているボトルで飲水を行うか、それぞれのチームのベンチ前でベンチのチーム関係者から容器を受け取ってライン上で飲水し、速やかに競技の再開を行うよう努めること。なお、競技中の飲水についてもライン上で飲水を行うこと。
(2) 飲水タイムは、あくまでも飲水のためであり、休憩や戦術指示のための時間ではないことを理解して下さい。ただし、極端に温度の高い場合においては、選手の安全を第一に考え選手の身体を冷やすことや飲水タイムの回数を増やすこと等を想定し対応して下さい。
(3) スポーツドリンク等、水以外の飲料水については、各会場の規定に従うこと(飲料については、代表者会議時に確認のこと)。
(4) 本来、飲料水の配置や捕給についてはチーム役員(コーチ・トレーナー・マネージャー)で行うが、この年代のチーム事情において控え選手がそれを行うことは認めざるを得ない。チーム役員に余裕のあるチームは役員においてそれを行うよう努めて下さい。
(5) 飲水を行う条件として、「サッカーの暑さ対策ガイドブック」の「夏季大会開催における指針」に従い3種年代の目安として「WBGT 28℃」とする。この環境温度の測定値が得られない場合は、基本主審の判断となるが、安全を重視して試合に関わる方々で判断することを願います
(6) 飲料水はタッチラインから1m以上離れた場所に置くこと。また、飲料水の配置は試合開始ホイッスルの前に完了すること
15. 競技中に負傷した選手の処置と復帰 (1) 選手がピッチ内で治療を受けることは出来ない。ただし下記の場合は除く。
① ゴールキーパーの負傷、ゴールキーパーとフィールドプレーヤーが衝突し即座に治療が必要な
② 同じチームの競技者が衝突し即座に治療が必要なとき
③ 重傷と判断されたとき
④ 相手競技者が警告される、または、退場を命じられるような身体的反則(例えば、無謀な、または、著しく不正なファウルとなるチャレンジ)の結果として競技者が負傷したが、負傷の程度の判断と治療がすばやく完了できるとき
(2) 主審がチーム役員最大2名をピッチ内への入場を認めたとき、負傷の程度を見ることが負傷者の搬出を手配することのために入場出来る。主審がピッチ外での治療が必要と判断した場合、負傷した選手は担架あるいは、歩いてピッチから離れなければならない。このときピッチから離れることを拒んだ選手には、反スポーツプレーとして警告が与えられる。
(3) 負傷してピッチから離れた選手は試合が再開された後に、主審の許可を得てタッチラインからピッチに戻ることが出来る。また、アウトオブプレーの場合は、全てのラインから主審の許可を得てピッチに戻ることが出来る。
16. 会場設営 (1) 各会場の設営は、第1試合の2チームで行う。
(2) 各会場の撤収は、最終試合の2チームで行う。

17. その他

- (1) 会場運営については、大会実施委員会に一任する。
- (2) 参加資格等の違反、不都合な行為等があった場合の措置については大会実施委員会で裁定する。
- (3) 大会期間中において、不慮の事故等が生じた場合は、各チームにおいて対応すること。
- (4) 応援については、各会場の指示に従うこと。鳴り物を禁止する会場もあります。
- (5) 本大会において、要項・規定以外の予期せぬ事象に対しては、大会実行委員で最終判断をしますが、早急な判断が必要な場合は、参加各チームの良識ある対応をお願いします。その場合、必ず実施委員会に顛末の報告をお願いします。
- (6) 天候等の事情により試合が日程通り消化出来ない状況が発生した場合は、大会実施委員会に一任す
- (7) 反スポーツ的(特に暴言・暴力・差別発言等)と判断される行為は相手チームのみならず自チーム間であっても厳に慎み、サッカーの品位を高めるよう努力を図ること。
- (8) チームベンチは会場本部席からグラウンドに向かって左側ベンチをプログラム「競技日程」の上段または左側に表記されているチームとし、対戦チームを右側とする。
- (9) 試合中の選手や観客を含め会場による緊急事態(救急搬送等)の対応は本部役員で行うが、それ以降の処置は各チームで責任を持って対応を行って下さい。
- (10) 試合終了後の挨拶は、両チームの選手による握手をもって終了とする(ベンチへの挨拶は無しとします)
- (11) 本要項及び注意事項に記載の無い事項については(公財)日本サッカー協会発行「サッカー競技規則2017/2018」による。